

082

contents

常設展  
第55回山口県美術展覧会  
クロード・モネ展報告  
年間スケジュール

# 天花

TENGE



坂田慶造「萩割窯変花器」 山口県立美術館

## 常設展

郷土工芸室

## 「現代の萩焼」

10/23 *tue* ~ 1/14 *mon*

桃山時代に始まった萩焼は近代になると茶陶という分野でその特色を発揮し、また、戦後はさらに大型の器が作られるようになるなど、多様な展開を見せています。新しい萩焼を担う現代萩焼作家の作品を紹介します。

## 表紙作品解説

坂田慶造(1949~)「萩剥離窯変花器」1990年 陶器 高31.5cm

底部は黒く、その上に濃い茶の層がある。その上にはベージュ色の層があり、最上部と内部は灰色の地にオレンジ色の星雲のような斑文が浮かんでいる。このように大らかな深鉢は四つの層に別けられており、変化に富んだ景色を見せている。下部の黒はあらかじめその周りにおかれたもみがらのようなものによるコゲで、濃い茶色が素地である。ベージュ部分は化粧掛けがほどこされたことを示しており、オレンジ色の星雲状の部分がこの作品の見所であり、またタイトルの剥離窯変が示す部分である。剥離とは施してあった釉をはがしたことを示し、オレンジ部分が窯のなかで生成された変化、窯変である。そして、この窯変は釉が掛けられていなければ生成しない。一度掛けた釉を焼成後にはがすというユニークな技法で、作家は今年の日本伝統工芸展の日本工芸会長賞を受賞した。

(榎本)

## 小林和作室

## 「雪舟」10/23~11/4

室町時代の画僧雪舟等楊(1420~1506?)は、大内文化の華開いていた山口にアトリエを構えて多くの時間を過ごしたことが知られています。当館所蔵の重要文化財3点と雲谷等與筆「雪舟等楊像」(個人)、さらに今年度新たに寄贈を受けた山岡山泉模写資料などを展示します。



雪舟「牧牛図(渡河)」 山口県立美術館

## 「小林和作」10/23~1/14

秋穂町出身の小林和作(1888~1974)は、豊かな色彩を駆使した独創的な風景画で知られています。彼は全国各地を旅して、四季のおりなす美しい自然に深く分け入りながらその画境を築き上げました。当展示では、油彩の風景画を中心に詩情と気品あふれる和作芸術の一端を紹介します。



小林和作「英彦山中の秋」 山口県立美術館

## 香月泰男室

## 「シベリア・シリーズ」10/23~1/14

三隅町出身の香月泰男(1911~74)は、シベリア抑留を経験し、復員後その重い体験を「シベリア・シリーズ」として描きこしました。当館常設展示では、香月の抑留体験の順を追ってシリーズを紹介しています。今回はシリーズ全57点の中から、応召から抑留までをモチーフにした作品をセレクトして展示します。



柳沢信「都市の軌跡より」 山口県立美術館

## 資料展示室

## 「柳沢信」10/23~12/9

## 「中平卓馬」12/11~1/14

# 第55回山口県美術展覧会

2001 10/25(木)～11/11(日) [月曜休館]

開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

入館料 一般250(200)円・学生200(150)円 ( )内は20名以上の団体料金  
70歳以上と18歳以下、および高校生、盲・聾・養護学校に在学される方等は無料  
\*教育文化週間(11/1～11/7)は全ての方が無料

## つくる

### 公募部門

審査会 平成13年10月16・17日  
審査員 後小路雅弘(福岡アジア美術館学芸課長)  
尾崎信一郎(京都国立近代美術館主任研究官)  
小池一子(武蔵野美術大学教授)

出品点数 358点  
入選点数 128点

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| <b>大賞</b> 「たんのう」    | 上坂美礼(萩市)              |
| <b>優秀賞(5点)</b>      |                       |
| 「メッセージ2001」         | 上本ひとし(下松市)            |
| 「ゆがんだ空間(ピースする女)」    | 岡村邦彦(山口市)             |
| 「追憶」「雑木林の木もれ陽」      | 寺内ヤス子(防府市)            |
| 「輪廻(N.Yに捧げる)」       | まつだなる(広島県)            |
| 「フォルム」              | 松本昌子(周東町)             |
| <b>佳作賞(10点)</b>     |                       |
| 「心象2001～ざわめきと静寂の同居」 | 足立直之(山口市)             |
| 「真夜中の散歩」            | 石井みつこ(岡山県)            |
| 「SOH-2001」          | 小野久美子(下関市)            |
| 「BORDER」            | 片山雄一(山口市)             |
| 「瞑想(海)」             | 古賀隆光(宇部市)             |
| 「THE BABY ROOM」     | 古村裕子(山口市)             |
| 「トライアスロン」           | 杉山和郎(長門市)             |
| 「scars」             | 戸野知美(岩国市)             |
| 「風景」                | 山根秀信(山口市)             |
| 「パンダ」               | 吉村芳生(徳地町)             |
| <b>特別展示</b> 「路地」    | 針間文(防府市)<br>昨年度大賞受賞作家 |



後小路審査員



尾崎審査員



小池審査員

### シンポジウム

「つくる・みる・ささえる」を考える

パネリスト 上坂美礼(大賞受賞作家)  
藤本幸子(ボランティアスタッフ)  
荒瀬景敏(ワークショップ講師・運営委員)  
木本信昭(運営委員長)

コーディネーター 岩井共二(山口県立美術館学芸員)

日時 11/4(日)14:00から 美術館講座室にて。参加無料。

## みる

### ワークショップ部門

「秋の芸術散策」  
～荒瀬景敏とギャラリー・ツアー～

日時 11/3(土)・11/10(土)・11/11(日)  
いずれも13:30から2時間程度

集合場所 県美展会場入口付近  
案内役 荒瀬景敏(美術作家)

このワークショップは、作品を「見る」ことの面白さ、大切さを、県美展の来場者に満喫していただくという企画です。ツアーの案内役は、荒瀬景敏が務めます。具体的には会場内を「散策」しながら、ある作品の前で、ときに立ち止まり、お話をしてみたいと思っています。すべての入賞・入選作について語るのとは不可能ですが、ツアー参加者の要望が多い作品についてはなるべく取り上げます。また、会期中は県美展運営を「支える」ボランティアが作成したワークシート(作品解説の補助になる用紙)もあるので、こちらも参考にします。ボランティアはツアーに同行し会話に加わってもらう予定です。そして美術館からも荏開津通彦と岩井共二のどちらかが学芸員の立場で同行します。このツアーの目標は美術館へ来られるお客様が「見る」ことへ積極的に参加し、「他の誰かと美術について対話する喜びを体験」してもらうことです。主役は参加者すべてのひとです。(荒瀬)

### 荒瀬景敏(1958～)

山口市生まれ。1981年、Bゼミスクール修了。84年に東京で初個展を開き、「ニューペインティング」と呼ばれる潮流の中で注目される。92年、第46回山口県美術展覧会で大賞受賞。96年からは山口県美術展覧会運営委員を務めている。

【主催】山口県・山口県教育委員会

【運営委員】荒瀬景敏（美術作家）・井生文隆（山口県立大学生生活科学部助教授）・今井徹也（建築家）

木本信昭（元下関市立美術館副館長・前下関市教育委員会教育次長）・武田雅行（山口芸術短期大学助教授）

原田文明（美術作家）・三輪和彦（美術作家）・森川紘一郎（徳山市美術博物館長）

横山眞佐子（児童書専門店（株）子供の広場代表取締役）・吉光純也（山口市企画財政部参事・美術作家）

福嶋太郎（山口県教育委員会文化財保護課長）・横山健二（山口県環境生活部文化振興課長）

## ささえる

### ボランティア部門

山口県美術展覧会の基本理念は、「つくる（作品公募部門）」、「みる（ワークショップ部門）」、「ささえる（ボランティア部門）」の創造的調和です。今年は、この理念に沿うように、「みる」と「ささえる」とをくっつけてみました。例年、ボランティアの人たちに、県美展の出品作品を対象にワークシートを作ってもらっています。その練習（この練習は、のべ20時間程度かかる）の指導を、ワーク・ショップの講師である荒瀬景敏氏にお願いしました。ボランティア・スタッフが、荒瀬氏と当館の学芸員とともに美術作品を見ながら、ああでもないこうでもない、作品に関する印象、批評、雑談などをかわす。このような時間を共有しながら、作品を「見る」ということの多様性を体験していただく、というつもりです。さらに、ワーク・ショップ部門として行われる荒瀬氏のギャラリー・ツアーに、ボランティア・スタッフにも加わってもらい、それぞれの人が感じた出品作品の魅力を語ってもらおう、と目論んでいます。

（在開津）



ポスター制作会議



荒瀬さんと対話しながらモネ展を「みる」



ワークシート制作の練習

# CLAUDE MONET

## クロード・モネ展報告

山口県立美術館では、7月5日から9月30日まで、自主企画展「クロード・モネ展」を開催いたしました。この展覧会は、国内外の美術館、画廊、個人所蔵家等から集めたモネの油彩画52点を紹介したもので、その中には、世界初公開となる新発見の「バティニョールの線路」が含まれるなど、多くの話題も提供しました。全国で山口だけでの開催にもかかわらず、遠く東京、北海道、沖縄からも見に来られた方々があり、日本におけるモネ人気の高さが改めて実証されたようです。土日ともなると美術館正面玄関前の広場は人であふれ、その中には家族連れの姿も多く見られました。展示室内の様子を見ると、大きくカーブした壁面に作品が展示されるなど、従来の当館の展示方法とは異なった斬新な構成となっています。「クロード・モネ展」の総入場者数は265,272人を数え、当館の展覧会入場者数の新記録となりました。（斎藤）



# 2001-2002

## schedule

山口県立美術館 平成13年度年間スケジュール  
常設展

特別展

4/28~6/5

ZENGA 帰ってきた禅画

-アメリカ キッター・イエレン犬 絵コレクションから-

5/29~6/10 秋吉台国際芸術村レジデンシー事業  
2001-2002招聘作家展

全館休館 6/11~7/4

展覧会準備のため全館休館します。

CLAUDE  
MONET

7/5~9/30

クロード・モネ展

全館休館 10/1~10/22

展覧会準備のため全館休館します。

10/25~11/11

第5回やまぐち県民文化祭

第55回山口県美術展覧会

12/4~12/9 第54回学校美術展覧会

12/18~<sup>2002</sup>1/27

雲谷等益-寛永期の雪舟流-

2/7~2/10 山口県立大学卒業制作展

2/14~2/17 山口大学卒業制作展

2/21~2/24 山口芸術短期大学卒業制作展

3/5~3/10 二紀展

4/17

生誕90年記念 香月泰男

「シベリア・シリーズ」全作品展

6/10

10/23

雪舟

11/4

柳沢信

小林和作

12/9

現代の萩焼

12/11

シベリア・シリーズ I

中平卓馬

11/4

11/16

荒木経惟

松田正平

2/5

2/24

古萩と置物

山口の

2/26

シベリア・シリーズ II

仏教美術

から

牛陽茂雄

4/7

## Information

### ■休館日

毎週月曜および年末年始(12月28日~1月3日)  
ただし、4月30日(月)、12月24日(月)、1月14日(月)  
は開館、12月25日(火)、1月15日(火)は休館

### ■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

### ■料 金

常設展: 一般190(160)円 学生120(100)円

( )内は20名以上の団体料金

特別展: 別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等  
学校、盲・聾・養護学校に在学する方は無料。  
教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館  
The Yamaguchi Prefectural  
Museum of Art  
〒753-0089  
山口市龜山町3-1  
TEL: 083-925-7788  
FAX: 083-925-7790

